グリーンアリーナから元気を発信

2010 グリーンアリーナニューイヤーイベント

新春神楽

1月2日(土)・3日(日)

えじゃん広島県
広島県観光キャンペーン

神々に奉納する
神楽で迎える新年
そこには感動がありいきぶく源がある

写真／筏津神楽団「黒塚」

平成22年1月2日(土)・3日(日)

■時　間　開場10:00　開演 11:00　終了 16:00予定

■場　所　**広島県立総合体育館 武道場**

■出　演　2日(土)：宮乃木神楽団(広島市)、筏津神楽団(北広島町)
後野神楽社中(浜田市)
3日(日)：大塚神楽団(北広島町)、琴庄神楽団(北広島町)
石見神楽亀山社中(浜田市)
※各団2演目ずつ上演(演目は裏面をご覧ください)

■入場料(全席自由)　前売券 2,500円(税込)【当日券は500円増しとなります】
小中学生 500円(税込)　未就学児無料
※イス席あり(400席)

10月31日(土) 午前10時より前売券発売開始

前売券発売所

- ●RCC文化センター ―― (082) 222-0044
- ●アルパーク天満屋 ―― (082) 501-1745
- ●千代田ショッピングセンターサンクス (0826) 72-3939
- ●広島県立総合体育館 総合受付 (082) 228-1111
- ●電子チケットぴあ ―― 0570-02-9999 (Pコード 399-181)
- ●デオデオ本店プレイガイド (082) 247-5111
- ●ひろしま夢ぷらざ ―― (082) 544-1122
- ●福屋駅前チケットサロン (082) 568-3942
- ●フタバ図書メガ ―― (082) 830-0600

■主催　グリーンアリーナニューイヤーイベント新春神楽実行委員会・中国放送
(財団法人広島県教育事業団・RCC文化センター)

■後援　紙屋町・基町回遊性向上連絡協議会、社団法人広島県観光連盟
財団法人広島観光コンベンションビューロー、中心市街地にぎわい創出推進協議会、中国新聞社

■お問い合わせ
TEL (082) 222-0044 (RCC文化センター内)
詳細はホームページで http://www.sports.pref.hiroshima.jp

ふるさと
ひろしまをげんきに!
ひろしまでげんきに!

2010グリーンアリーナニューイヤーイベント

新春神楽

新春神楽出演団体・演目紹介

2日(土)

天の岩戸 あまのいわと　筏津神楽団

この神楽は、弟神の悪業行に腹をたてられた天照大神(あまてらすおおみかみ)が岩戸の中へお隠れになり、世の中が常闇となりました。そこで天児屋根命(あめのこやねのみこと)を始め、八百万の神々が協議の上、岩戸の前で天細女命(あめのうずめのみこと)が賑やかに舞踊されます。中から大神が少し覗かれたところを力持ちの神、手力男命(たちかろうのみこと)が岩戸を開き、大神がお出ましになると、再び世の中が明るくなりました。

鏡山 かがみやま　後野神楽社中

これは、江戸時代の中ごろ浜田藩の出来事を基にした物語です。
歌舞伎では女性版「忠臣蔵」として有名です。浜田藩主第6代松平周防守康豊は、格上の津和野藩の娘を奥方にしました。その御付の局が岩藤(落合沢野)で、気短く困り者であった為、岩藤の補佐役として尾上(岡本道女)が抜擢されたのです。そして尾上には、お初(松田察)が女中として上ったのでした。しかし気位の高い岩藤はことある毎に尾上をののしり、その果てに尾上は自害したのです。お初は、尾上自害の懐剣で岩藤を討ち尾上への忠節を守りました。
これが「鏡山事件」として伝えられています。

一条戻り橋 いちじょうもどりばし　宮乃木神楽団

大江山、酒呑童子の手下、茨木童子は夜ごと都人に化相して戻り橋あたりに出没しては、都民たちに災いをかけます。頼光の家人、渡辺綱が主命を受けて征伐に向かいます。茨木童子は老女に化相し、通りかかった傘売り善兵衛に、傘を買うからと言って近寄ると、いきなり鬼女の正体を現します。折しも渡辺綱が通ると女に化相して京の五条まで連れて行ってほしいと頼みます。道すがら川面に映った女は鬼の姿でした。魔術を使う鬼は、襲いかかり綱を倒します。そこに岩清水の神の弊を持った坂田金時が加勢して闘い、鬼の左腕を切り落とすものの、鬼は北の空へと逃げ去っていきます。この物語は、腕を鬼がとりもどしに来る「羅生門」、そして丹波・大江山への鬼退治「大江山」へと続きます。

黒塚 くろづか　筏津神楽団

「鬼が棲む」と里人は恐れ、近づくことのない那須野ヶ原の黒塚へ、那智の東光坊の山伏・阿闍利祐恵と剛力がさしかかる頃、日が暮れました。そこで、柴の庵(粗末な小屋)を見つけ、剛力は一夜の宿を願い、借りることが出来ました。この宿主こそ、里人に恐れられている金毛九尾の狐の化身だったのです。夜中近く、狐は鬼女となって、二人を襲います。剛力は食べ殺され、山伏は逃げ去ります。その後、弓の名人三浦ノ介、上総ノ介によって悪狐は退治されます。悪狐は、絶命の時「毒石となって世に害を放ってやる」と言い残します。この物語は、「安達ヶ原の鬼女の伝説」と「那須野ヶ原の殺生石(悪狐)の伝説」この二つの伝説が組み合わされています。

八岐大蛇 やまたのおろち　後野神楽社中

出雲の国に暮らす足名椎・手名椎老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとりと大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・稲田姫は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原から舞い降りた須佐之男命が通りかかり、その訳を聞きます。命は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇は押し寄せてきて、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに騒ぎ、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた命は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。更に大蛇の腹を切り裂くと、にぶい音と共に一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣と名づけ、天照大神に捧げることにします。そしてめでたく稲田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

新羅三郎 しんらさぶろう　宮乃木神楽団

この神楽は、平安末期、朝廷に反した東北の安倍一族が滅ぼされた「前九年の役」の後、再び東北で起こった清原一族による争い「後三年の役」を背景とした神楽です。東北征伐に出向いている兄・八幡太郎義家(源義家)の苦戦を聞いた弟・新羅三郎義光(源義光)は加勢に向かいます。そこへ義光の笙の師匠の息子(豊原時秋)が追いつき、参戦を願い出ます。しかし義光は戦場に行くことを許さず、父の後を継ぐように論し、形見に自分の笙を与え、都に帰します。そして、東北に着いた義光は義家軍に加わり、兄弟による凄まじい戦いの末、清原一族を攻め落とすという物語です。

3日(日)

岩戸 いわと　石見神楽亀山社中

「先ずは岩戸のその始め　隠れし神を出さんと　八百万の神遊び　これぞ神楽のはじめなる」
弟神、須佐之男命の悪行に大御心を悩まされた天照大御神は天の岩戸にお隠れになり、世の中は常闇となってしまいます。そこで、兒屋根の命、太玉の命をはじめとする八百万の神々の神謀らいにより、宇津女の命の御神楽の賑わいに少し開かれた岩戸を、手力男の命が懸命に開き、世の中に再び光が舞い戻ります。八調子石見神楽では、舞手は最後の喜舞で面(おもて)をはずし、神楽歌を歌いながら舞い、その土地の平和、繁栄を祈願します。

義経平氏追討 よしつねへいじついとう　琴庄神楽団

源氏と平家の長い戦いの歴史も、いよいよ雌雄を決する時を迎え、壇ノ浦で幼い安徳天皇を抱いた二位の尼を始め平家一門は、源義経・武蔵坊弁慶らによって追いつめられ、ことごとく海中に没し滅びてしまいます。しかし討ち死にした平家の総大将平知盛はその恨みを晴らすべく怨霊となります。その後、後白河法皇の策略によって、兄頼朝から追われる身となった義経は、都を離れ奥州へと落ちて行きます。義経一行が大物浦にさしかかったとき、空が一点にわかにかき曇り、知盛の亡霊が現れます。石清水八幡のご加護と法華経の法力によって難を逃れた一行ですが、この先の多難を思い静御前を気遣う義経。自分がいることで義経に危険が及ぶことを恐れる静。
吉野山での身を切るような別れの後、一行は再び奥州へ向かい旅立っていくという物語です。

恵比寿舞 えびすまい　大塚神楽団

「国造り」の神さまとして知られる大国主神は、大地を耕す農耕の神さまであると共に数多くの名前を持ち、それだけにご神徳が高いとされています。七福神の中では大黒さまとなって五穀豊穣を授けてくれ、片手に持つ「打ち出の小槌」で「開運」を与えてくれます。大国主神の息子であり「国譲り」の神様事代主神は、美保関で魚釣りをしていたことから漁業の神さま、大漁を呼び込む神さまとされています。七福神の中ではいつも片手に竿を持ち恵比寿さまとなって豊漁を与えてくれ、台所を豊かにすることから商売繁盛のご神徳を兼ねるようになりました。大地の恵み・山の幸・海の幸・そして楽しい歌と笑顔で新年いい年でありますよう願って舞い納めます。

頼政 よりまさ　石見神楽亀山社中

平安物語、源三位頼政の鵺退治伝説を神楽化したものです。平安時代の末、幼くして即位された近衛天皇のころ、天皇は毎夜丑の時になると、もののけに悩まされました。勅命を受けた弓の名人源頼政は一族の猪早太とともに東三条の森へもののけ退治へ向かいます。やがて夜がふけ月夜を怪しい黒雲が覆いました。もののけの気配を感じた頼政が八幡大菩薩と念じ弓を放ちました。確かな手応えがあり、すかさず早太がとどめをさします。やがて雲が晴れ月明かりに照らされたそのものの姿は、頭は猿、体は牛、手足は虎、尾は蛇の姿をした怪物でした。また、その鳴き声は鵺に似ていたと言います。見事怪物を退治した頼政は、天皇より左大臣頼長を介して、剣を授けられます。

奥州平泉 おうしゅうひらいずみ　琴庄神楽団

これは、平安時代の終わり、数々の英雄伝を残しながら悲劇の主人公となった源義経の逃亡とその最後を描いた物語です。
義経は身に覚えのない政治的流れによって逃亡者となり、すでに最愛の静御前とは別れ、幼き頃を過ごした奥州平泉の藤原秀衡を頼りに道なき道を東へ向かうのでした。
途中、加賀国・安宅の関では、頼朝の命を受けた富樫氏の嫌疑を受けますが、弁慶の機転と富樫氏の温情により事無きを得ます。苦難の末、秀衡の元へ辿り着いたのも束の間、秀衡が亡くなると頼朝への使命を果たさんと川田兄弟が攻めてきます。義経一行は、これを撃退したものの秀衡の子・泰衡が動き、ついに義経・弁慶は、その最後を悟るのです。

紅葉狩 もみじがり　大塚神楽団

狩野の旅にでた平維茂は、道に迷い信州戸隠山に入り、紅葉狩の酒宴を開き、待ち受ける戸隠山の鬼女たちに誘われます。
酒宴の酒に酔い伏した維茂の一命危うしとなったとき、日頃信心する八幡大菩薩が降臨し救われます。一命を救われた維茂は授かった神剣をもって、めでたく鬼女を征伐します。

■出演団体プロフィール

宮乃木神楽団(みやのきかぐらだん)
広島市

平成10年に広島市安佐北区飯室の野原八幡神社を御祭神として結成されました。発足当時は団員4名、太鼓も衣裳も何もないゼロの状態からのスタートでした。阿須那系神楽を中心として伝承するとともに、若い人たちと一緒に「神楽とは何か」を考え学び、儀礼舞、旧舞、新舞の流れを踏まえ、先人たちの育んだ神楽の心意気を学びたいと考えております。

筏津神楽団(いかだつかぐらだん)
北広島町

1842年、筏津若衆連似よって神楽奉納されたと枝ノ宮社伝記に記載されております。筏津神楽団の発足はその頃と思われます。その後、矢上系(旧舞)の神楽が導入され昭和に入り高田舞(新舞)を習得し、幾多の先輩諸氏によって習い受け継がれてきました。
現在、団員は25名で10代から70代の幅広い年代で構成し、日々練習、奉納を行っております。

後野神楽社中(うしろのかぐらしゃちゅう)
浜田市

私たち後野神楽社中は、八調子神楽を古き先人より学び、社中の伝統を守ると共に、新しい神楽の魅力を模索しながら郷土芸能の維持継承と地域の活性化に努めております。
近年、古里浜田に埋もれる文化を神楽にしたいという思いから創作神楽「鏡山」を発表し多くの皆さんから激励を賜り、今後も更に研鑽する所存であります。

大塚神楽団(おおつかかぐらだん)
北広島町

発足は明確ではないものの、明治30年代頃と思われます。その起源は、島根県石見町矢上の「矢上神楽」と伝えられています。旧舞として受け継いできましたが、昭和20年代後半に旧千代田町より、新舞が伝えられその間新旧両舞を伝承していました。近年になり若い団員が気分を新たにし、伝統を大切にし、新舞を習得し、地域の皆さまに喜んでいただける神楽をと日々練習に励んでいます。

琴庄神楽団(きんしょうかぐらだん)
北広島町

当神楽団は、北広島町(旧豊平町)の中心に位置する庄原八幡神社と琴谷点日神社を守護神とし、崇拝してきておりますが、昭和48年神楽同好会が発足し、町内の神楽団より、八調子、六調子の神楽を習い奉納してきました。その後、高宮町の神楽団から神楽を習い昭和60年に琴庄神楽団となりました。いつまでも初心を忘れることなく、皆様の声援を何よりの励みに精進してまいります。

石見神楽亀山社中(いわみかぐらかめやましゃちゅう)
浜田市

島根県西部に伝承される八調子石見神楽を継承し、発足当初から多くの神楽関係者、神楽ファンの皆様に支えられ活動して参りました。これからも神楽のみならず、神楽人としての生き方を真に見つめ人となりを磨き、社中理念である「温故知新」の精神を貫き、敬神感をもとに伝統芸能を継承すべく儀式舞・能舞の習得伝承に社中員一丸となり精進研鑽する所存でございます。